

日本SOD研究会報

愛飲者レポート

テニスのシニア日本チャンピオンを襲った
余命3か月の急性白血病丹羽療法で
奇跡の生還

丹羽療法レポート

高度先進医療のなかで注目の重粒子線、
陽子線治療は有効か否か発行元 日本SOD研究会 宮城
住 所 〒158-0094
東京都世田谷区
玉川1-15-2 B棟2802
T E L. 03-5787-3498
<http://www.SOD-jpn.org/>

ご無沙汰しております。というのが今回インタビューさせていただいた辻田さんとの久しぶりのあいさつでした。会報をずっとご覧いただいている方のなかにはご記憶かもしれませんが、辻田さん、この愛飲者のコーナーには二度目の登場となります。一度目は、10年ほど前（会報No.91）のことです。

テニスで年代別全日本チャンピオンという華々しい経歴を持ち、会社経営の傍ら40歳になって鍼灸治療師の資格を取り、治療師としても活躍されていた辻田さん。50代のときホノルルマラソンに出場し、4時間10分で完走した経歴もあります。そんなスーパーマンのような辻田さんが動けないほどの大病に見舞われたのは61歳のときでした。テニスの全国大会が迫っていたため、日夜猛練習をしていたある日、突然、肩に痛みが走ったのです。筋を痛めたと思っていたら、肩に次いで肘膝にまで痛みが広がり、これはただ事ではないと大学病院で診てもらったのです。診断は膠原病でした。

膠原病というのは、全身性エリテマトーデス（SLE）、全身性硬化症（PSS）、皮膚筋炎（DM）、関節リウマチといった病気などの

総称で100種類以上にのぼります。上記の病名でも分かるように、関節、血管、内臓などにある結合組織に異常をきたす自己免疫疾患の一種と言われています。いまだ完全な治療法がないそうです。

このとき辻田さんに処方された薬も、炎症止めと痛み止め、薬で胃が荒れないようにする胃薬の3種類。どれも根本的に病を治すものではありませんでした。

「西洋医学では治療法がないのだから仕方ない」

とは思うものの、筋肉がみるみる落ち、歩くのも困難になると精神的なダメージも大きかったと言います。普通ならそのままあきらめてステロイド系の薬を常用していくところなのですが、辻田さんは違いました。テニスで培った負けず嫌いの性格、あきらめない精神で、丹羽先生の治療を探し当てたのです。

「ほとんどあきらめかけていた時に巡り合った丹羽先生に、僕の言うとおりにすれば必ず治るから、胃薬も炎症止めもいらない。痛み止めだけ我慢できない時に飲みなさい、と言われてものすごく気持ちラクになりました」

そうして先生に処方された特製

の漢方とSODを1日に9包飲み始め、なんと1年後にはテニスができるくらいに復活し、翌年の全日本大会シニア部門で見事優勝を飾ったのでした。

ある日突然、立ちくらみ 血液のがんかもしれない

あれから8年。辻田さんはすっかり元気になり、テニス三昧の日常が戻っていました。そんなある日のことでした。

「いつものようにテニスの練習をしていたら、急にバランスがとれなくなり、ふらついた。いわゆる立ちくらみですね。初めは、単なる貧血かなと思いました。甘いものと水分を補給すればこんなのがに帰ると思って気にも留めていなかったのです。その後も、めまいや立ちくらみがしばしばありましたが、ちよつと疲れているのだろうな、くらいに思っていました。そうしたら今度は、動悸や息切れに見舞われ、テニスコートでしゃがみ込むようになったんです」

辻田さんはこのとき77歳。日本人男性の平均健康寿命（自力で歩けてひとりで普通の生活ができる状態）は71歳と言われていますか

ら、77歳でテニスができていること自体、すごいこと。しかもシニアで日本一だなんて驚異的な辻田さんではありますが、いきなりの不調にさすがにこれは変だなと思ったそうです。そして近所の病院を訪ねたのが平成25年6月のことでした。血液検査をしてもらったところ、

「先生は、検査結果の数値を見ながら、うーん、かんばしくないですねー、と厳しい表情で話し始めたんです。なにか異変があったんだと覚悟しました。不治の病といわれている膠原病を患った経緯がありますから、再発したかと思いましたが、このとき先生から言われたのが、赤血球と白血球の割合を示すヘマトクリットの数値が異常に低いと」

ヘマトクリットというのは、血球が血液の中で示す容積の割合で、通常の成人男子で38.5～48.9%という数値が正常範囲内ですが、辻田さんは、たったの26.9%しかありませんでした。

「先生に、骨髄異形成症候群の疑いがあるから、早急に大きな病院で診てもらったほうがいいです、と言われました」

骨髄異形成症候群とは、難病情

報センターの資料によると、

赤血球、白血球、血小板といった血液細胞（血球）は骨髄の中で造血幹細胞といわれる細胞より作られます。血球の寿命は短いため、骨髄の中では生涯にわたり大量の血球が作り続けられています。何らかの理由で十分に血球が作られなくなると、血球減少がおこります。骨髄異形成症候群というのは、造血幹細胞に異常が生じ、十分な量の血球を作ることができなくなり、その結果血球減少を起す病気です。骨髄異形成症候群の患者さんは経過中に急性骨髄性白血病になる危険性が高いことも知られています。症状としては、貧血症状、息切れ、動悸、全身倦怠感、脱力感、などが見られます。高度の白血球減少がおこれば、細菌やかびなどの病原体に対する抵抗力が低下し、肺炎、腸炎、さらには敗血症といった感染症を起こします。血小板が少なくなるとささいなことでも出血しやすくなり、軽度の打撲で大きなあざをつくる、歯磨き後の歯肉出血が止まりにくい、鼻出血を繰り返す、といった症状が見られます。外傷や感染症を契機として頭の中や胃腸などに重大な出血を起こすこともあります」

簡単に言うと、いわゆる血液のがんの一種だそうです。赤血球も白血球の数値も平均値の半分くらいとかなり低く、また、立ちくらみや疲労感などの自覚症状が出たのもこのことからでした。

葬式の準備をしておいたほうがいいと言われた 目の前がまっくら

血液検査から20日後、7月10日、辻田さんは日本でも屈指の著名な大学病院で骨髄の検査をしました。その結果は、やはり骨髄異形成症候群でした。このままでは1年後には急性白血病になる可能性が高いと言われました。

急性白血病という血液のがんの治療法は、西洋医学では骨髄移植しかないと言われています。そして、それは65歳以下しか適応できないそうです。

「もし移植できたとしても、その後、ずっと免疫抑制剤を投与しなければならぬのは知っていました。できたとしてもリスクが大きすぎますよね。免疫抑制剤は免疫が落ちるわけだから、かぜやインフルエンザでも死に直結してしまふ。かといって他の治療法は、造

血効果のある薬（免疫抑制剤やステロイドと同様、嘔吐や食欲減少などの副作用があるとか）を飲むか、輸血を定期的に行うしかないそうでもう、ここまできたら、どっちにしてもダメかもしれないと思いました」

異変を感じてからの数か月。64キロあった辻田さんの体重は51キロにまで減っていました。味が分からなくなり、食欲も落ちたそうです。その変貌は、周囲の目にも明らかで、辻田さんを良く知る人は、あの頃は顔色も悪く、いつものパワーあふれる辻田さんじゃなかった、重い病気かなと思ったそうです。本人もかなりのショックだったはず。そんな危機の中で辻田さんは

「僕も治療師の端くれですから、化学薬品を使った治療法はやりたくなかったから輸血などは拒否しました。しかし、このときの僕のヘモグロビン数値（血色素数）は7.1しかなかったんです。平均は13〜16で、7以下では立っていられないらしいです。もう限界でした。そんなときにやはり頼りたかったのは信頼している丹羽先生でした」

7月12日に大病院で検査の結果を聞き、26日に大宮の診療所に

79歳と思えない引き締まった筋肉とつややかな肌
なにより活力に満ちあふれている辻田さん



丹羽先生を訪ねました。

「大病院の検査データを持って行ったんです。そうしたら、そのデータを見た丹羽先生は、あんた、これはもう急性白血病ですよ。最悪の場合、余命は3か月くらい。お葬式の準備をしておいたほうがいいかもしれないと言われ、これにはショックでした。目の前が真っ暗とはこのことでした」

丹羽先生は、どんな患者さんにも変に期待を持たせたりはしません。その代わり、可能性がある場合は、暖かい声で大丈夫、と励ましてくれます。普通の病院の先生なら可能性はやってみないとわかりませんか、パーセナテージでしか言ってくれませ

ん。だからこそ辻田さんにとって、は厳しい現実だったはず。しかし、先生は最後に「うちの病院にくるか？ 苦しみますに少しは長く生きられるようにしてやるから。と言ってくれたんです。そりゃ嬉しかったです。どうせダメなら、少しでも長く、少しでも元気な状態でいたいと誰でも思うじゃないですか」

1か月の入院で数値回復 余命3か月が、 100歳まで生きる

早ければ早いほどいい、迷う余地はありませんでした。辻田さんはその場で土佐清水病院行きを決め、1週間後には高知空港に降り立っていました。

「大宮の診療所に行ったその日から丹羽先生特製の薬を出してもらい、SODといっしょに5種類くらい飲み始めていました。H.T.T、タブ、SOD・Cなどでした」

今、土佐清水病院は病院内に入院設備がなくなり、通院という形をとって診療しています。病院近くのはとんどの民宿と提携し、食事、病院内の指示に従った病院食を出してくれるそうです。

「おせじにもきれいな民宿ではなかったけど、患者さんで満室なんです。ほかの民宿も同様らしく、丹羽先生を頼ってくる人は多いんだな、改めてすごい先生だと思います」

すごい先生、という想いがさらに増すことになったのは、入院して最初の血液検査の結果でした。

「信じられないことですが、すべての数値が増えていたんですよ。その結果を見て先生も、いいぞ、良くなっているぞ。これはいけるかもしれないと言ってくれたんです。ほんとうに嬉しかったですね。入院までの一週間に飲んでいた薬が効いたんですね」

辻田さんは土佐清水に約1か月滞在しました。その間に行った治療でいちばん体が喜んでるのが分かる治療が、マグネー石ででき

◆丹羽先生診察ご希望の方は
御紹介、御予約いたします。

※自由診療となります。

丹羽メディカル研究所

☎ 0120 (731) 175

もしくは

日本SOD研究会

☎ 03 (5787) 3498

まで お電話ください。

たサンドバスだったそうです。

「入院中は毎日入っていました。初めて入ったときは、5分も入っていられなかった。体中がドクドクして耐えられなかったんです。それが、日ごとに長くいられるようになって、最終的には15分くらい入れるようになった。これは本当に良かったですよ。血が全身を巡っているのが分かるんです」

同時に、味覚異常も少しずつ回復し、今度は逆に、食事がおいしくておいしくて、体重も1日に1キロずつ増え、元に戻ったそうです。もちろん立ちくらみもめまいもなく、後半は、病院から民宿まで徒歩で1時間近くかかる距離を、歩いたり走ったりして帰ってきたとか。さすがアスリートです。「いや、海がきれいで、食べ物もおいしくて、途中から入院じゃなく、旅行に来ている気分でした。入院友達もでき、戦友みたいですね」と大笑い。

「2回目の血液検査でも順調に数値が増え、先生も、あんたいいぞ！もしかしたら100歳くらいまで生きるかもしれないぞ、と言ってくれて、嬉しかったですね」

そうして辻田さんは、全快に近い状態で東京に戻ってきました。

「大学病院で検査をしたところ、その数値に（表1参照）ものすごく驚かれました。この病気でこれだけ回復した人は初めて見ました、何をしたんですか？と。でも、西洋治療しか勉強していない人には丹羽先生のことを説明しても分かってもらえないから、生薬を使った療法で治したとだけ言いましたね」

丹羽療法を始めるのが 1か月遅かったら 終わりだった

辻田さんが病魔に侵されたのはどうしてだったか、その原因ははっきりと特定はできません。しかし、ひとつ言えるのは、辻田さんは普通の歳を重ねてきた人ではなく、アスリートだったということです。しかも、ほぼ毎日、炎天下のテニスコートを駆け巡っていたのです。それは、同時に大量の紫外線を浴びることでした。紫外線と過度の運動で発する活性酸素の量のことを考えると、恐ろしくなります。加えて、全日本シニアチャンピオンとしてのプレッシャーやストレスも半端じゃなかったと思います。実際、辻田さんのテニスの僚友がふたりも同じ病にかかっていた

とか。残念ながらおふたりは、辻田さんが退院した頃に相次いで亡くなられたそうです。

「あのとき、もう一か月、丹羽先生のところに行くのが遅れていたら、僕は、今、ここにいませんでした。ね。終わりでした。先生の先見の明、豊富な治療実績、そして寝ずに開発された生薬など、すべてのおかげです」

しみじみと言います。今は同じ病の友人に丹羽先生を紹介しているとか。一人でも多くの人が自分のように生還できればと願っています。

「今も数か月に一度、大宮の診療所に行っているのですが、診療は10秒で終わりです。ええ、薬はSODといっしょに今も飲み続けています。最近すごいのは、真っ白だった髪の毛の根っこが黒くなってきたんですよ」

確かに、髪の毛の根のあたりが黒いのです。白髪染めをしている人の根っこは全く逆で根っこが白く、徐々に黒くなるものです。こんな逆現象を目の当たりにしたのは初めてでした。また、テニスにも復帰し、最近では、動悸も息切れもなく、体が動いてしまうから、つい無理をしてしまうと笑っています。

表1

検査項目	基準値 (男性)	H25年6月19日 発症直後	H26年11月20日 丹羽療法後
白血球数	3200～8500 μ l	2820 μ l	5300 μ l
赤血球数	400～539 μ l	229 μ l	525 μ l
血色素数 (ヘモグロビン)	13.1～16.6g/dl	9.4g/dl	14.2g/dl
ヘマトクリット	38.5～48.9%	26.9%	42.7%

「でも、紫外線が強い夏場だけは控えようかなと思っています。ただ、今年の秋の全日本大会は出ます。80歳代部門で優勝したいんですよ。そうすればシニアチャンピオンを網羅できるので。あと、マラソンをまたやりたいですね」

ただただびっくりしてしまします。そんなに急がないでください。100歳までまだまだ先は長いのです。いいながら、辻田さん、秋の吉報、楽しみにしています。取材、ありがとうございました。

丹羽療法レポート

高度先進医療のなかで 注目の重粒子線、 陽子線治療は有効か否か

高度先進医療、この言葉は、保険会社のCM等でよく耳にするようになりました。エックス線、放射線治療よりも高度ながん治療で注目を集めている粒子線治療などがその対象です。数百万円の治療費がかかる高額なものがほとんどで、しかも健康保険治療の対象外です（厚生労働省が認めた10余りの高度先進医療に限り、検査、入院などにかかる費用は保険対象。治療自体は自己負担）。

そのため、各保険会社がこぞって高度先進医療保障を謳う商品を売り出したのです。また、著名な作詞家の方が、2012年にステージ2の食道がんを、手術しないで陽子線治療という高度先進医療で取り除き、がんはなくなった、完治したと発表して話題になりました。陽子線治療は、水素の原子核、つまり陽子を非常に高いエネルギーをビーム状になるまで加速してそれをがん細胞に照射する治療だそうです。テレビ番組の中で語られた話では、身体にメスを入

れないで、抗がん剤などの薬も使わないでがんを取り除く方法を模索したところ行き着いたのがこの治療法だとか。一日平均20分の照射を2週間で20回。この療法は、がんやその周囲、通過する部分も照射され、身体への負担も大きい放射線と違い、ピンポイントでがんだけを照射できるとか。その分、身体への負担や痛みも少なく、なによりもすぐに仕事に復帰できることが利点だそうです。

いいことづくしに思える高度先進医療。それに関して、ぜひとも丹羽先生のお話を聞いてみたいと新横浜の診療所に伺いました。

重粒子や陽子線も
放射線と大差ない。
がんは甘くない。
過度な期待はダメ

——今日は高度先進医療のなかでがん治療に有効と言われ、話題になっている重粒子線、陽子線につ



いて伺いたいのですが、これらはどれくらい有効なんでしょうか。「結論から言うと、あまり効かないですね」

——いきなり効かないですか

「理論上はがん細胞だけに効いて、すべて取り除けると言うし、身体への負担や副作用もあまりないから使ってもいいけど、効かないですよ。重粒子や陽子線が本当に効

くものを照射したら、強すぎてショック死してしまいますよ。安全な範囲のものはあまり効かない。というか、取り除けても、やはりがんというものは甘くない。取りきれものじゃない。必ず取りこぼしがあるし、転移もある。怖いのはそれです。がん細胞だけを勝手に察知して取ってくれるものではないのだから。人間がここ

とこことここ、といってCTなどで診て調べたところに照射するんだから。普通の放射線と変わらないです」

——ただ、放射線よりも身体への負担が少なく、痛みもないと言いますか

「それだけ。過度な期待は持つてはいけません。末期のがんや広範囲に広がったがんには使えないし、本当のがんだったら、5年以内に再発しますよ。再発しなかったら、もともとそれは放置していても大勢に影響のあるがんではなかったんです。本物のがんならば必ず再発、転移します。そのことは頭に入れておいてほしいです」

先生は最後に「だから体の内側から免疫力に働きかける、丹羽療法がいちばん安全で効果的」とおっしゃいました。過度の期待、本当にそのとおりです。

そして、先生にお話しをうかがった数日後、前述した作詞家の方のがんが再発した、というニュースが飛び込んできました。ニュースによると、今回は手術もされたようです。とっさに丹羽先生が言われた「がんならば必ず再発する」の言葉が浮かびました。

※陽子：最も軽い元素である水素の原子核。

SOD様作用食品 体験者の声をお聞かせ下さい。

難病で苦しむ方たちが、少しでも早く良い治療法に行き当たるように、本誌では愛飲者の声を募集しています。お手数ですが、

〒158-0094 東京都 世田谷区
玉川1-15-2 B棟2802

日本SOD研究会 宮城宛

TEL 03-5787-3498

までご一報下さい。

黒ゴマの驚くべき!

健康効果



ゴマの優れた栄養成分の
体内での働きについて

黒ゴマキャラクターのゴマっちです。
黒ゴマの健康効果についてお伝えします!

古くから、ゴマを食べると若々しく健康に過ごせ
るといわれてきました。このゴマの健康パワーの源
といえるのが、ゴマに含まれる希少成分のゴマリグ
ナン類、その主成分であるセサミンです。

今月は、ゴマの効率的な摂り方、ゴマとの上手
な付き合い方についてレポートしていきます。

「ゴマとの上手な付き合い方」

私たちの身体に非常に有用な成
分を含んでいる「ゴマは、毎日でも
食べたい食品です。でもせっかくだ
く食べるのなら、より効果的な「ゴマ
の食べ方」も知っておきたいですよ
ね。

そこで今回は、「ゴマの効果的な
摂り方」についてQ&A方式でお送
りしていきます。

「ゴマをどのくらい食べれば効果的?」

健康維持を考えれば、1日1
回5〜10gほどを毎日摂るのがい
いでしょ。これはだいたい大き
じ半分〜1杯ほどです。

「一番いい食べ方は?」

「ゴマ」と言っても、生のもの、
煎ったもの、皮を除いたもの、すっ
たものなどいろいろです。

消化吸収の点からいうと、皮つ
きのゴマをそのまま食べるとその
まま排出されてしまう可能性が高

体内の抗酸化酵素や解毒酵素
はいつたん高まれば72時間くらい
は効果が期待できるといわれてい
ます。

このことから考えると毎日は無
理でも、週に2回は食べたいとい
うことです。

いので、「すった「ゴマを食べる」こ
とが最も効果的といえるでしょ
う。

香りも楽しみたいということであ
れば、皮つきのものを煎って食
べるのがよいでしょう。

「ゴマはいつ食べるのがいい?」

基本的には朝でも夜でも効果に大
きな差はありません。「ゴマリグナ
ンは食べてから1時間ほどで血液
中に入り、8時間ほどしたら尿
中に流れていってしまいます。

この食べてから1〜8時間くら
いの間は、体内で生じた活性酸素
を除去する効果が期待できるとい
えます。そう考えると活動を始
める朝に摂るようにするのがいい
かもしれません。

「一番いい食材の組合せは?」

「ゴマをそのまま食べる人は少な
いと思いますが、やはり他の食材
と一緒に食べることにより効果があ
ります。相性の良い組み合わせ例
としては、良質なたんぱく質が摂
れる大豆、それと魚です。

魚の脂肪などに含まれるn-3系の
脂肪酸は必須脂肪酸ではあるの
ですが、酸化しやすいという欠点
があります。「ゴマと一緒に摂ること

により、酸化を防ぐことができま
すし、脂肪酸をバランスよく摂る
ことができます。

基本的に、「ゴマはどんな食材と
も合うといえます。日常の食事で
も、積極的に活用して「ゴマの栄養
成分を摂る」ようにしましょう。



ゴマ



乳酸菌発酵と特殊な加熱処理に
よって、セサミンを1包で約
30mg摂取できるサプリメント、
SODロイヤル黒胡麻。毎
日の健康のためにも、サブリメ
ントもぜひ活用したいですね。